

第19回「平和を求めて」図書館資料展

戦前・戦中・戦後を生きた 子どもたち



伊予田昌男撮影・たましん地域文化財団所蔵

日 時	平成22年7月31日(土)～8月29日(日)
火～金曜日	午前9時30分～午後7時
土・日曜日	午前9時30分～午後5時
休 館 日	毎週月曜日と8月27日(金)

ところ 豊橋市中央図書館 2階 展示コーナー

はじめに

終戦の日、人々はさまざまな思いでその日を迎えました。それからもう65年の年月が経ちました。戦争の悲惨さを体験している人々は、徐々に減ってきています。今年、本館の「平和を求めて」図書館資料展のテーマは、『戦前・戦中・戦後を生きた子どもたち』です。

65年前に日本が戦争をしていたこと、豊橋にも空襲があり、爆撃による大きな被害があったこと、広島・長崎に原子爆弾が落とされたことなどを、知らない大人や聞いても理解できない子どもたちが増えています。

当時の子どもたちは、戦争という厳しい状況の中で、いったいどのように暮らし、生き抜いてきたのでしょうか。本資料展を通して、これからを生きる子どもたちや若い人たちに、戦争の悲惨さや平和の大切さを少しでも伝えられたら幸いです。

目次

太平洋戦争が始まって	2
暮らしが消えた	3
厳しい学校生活	5
空襲からの脱出	7
生きるために	9
戦争が終わって	10
原爆のおそろしさを訴える	11
次いでナガサキにも	13
寂しさに耐える戦災孤児	14
絶たれた幼い命	16
子どもたちの友情の人形	19
子どもたちが戦争を学ぶ	20
参考資料	23